

ついうっかり…

が事故を生む！

なくそう！公務災害

気付かなかった

深く
考えなかった

大丈夫だと
思った

無意識に
体が動いた



慌てた

疲れていた

面倒だと
思った

地方公務員災害補償基金広島県支部

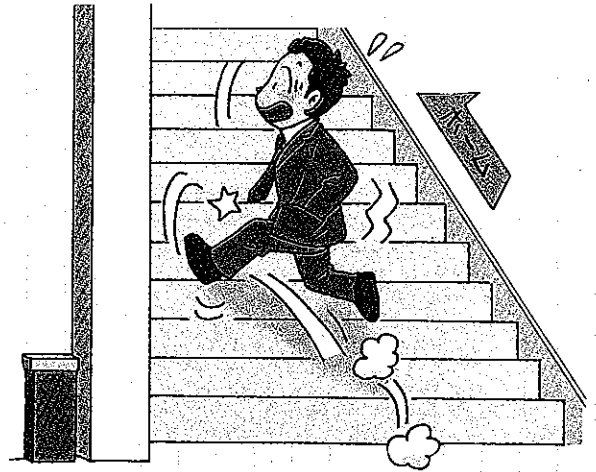
「ついうっかり」が、公務災害に

公務災害発生事例の中には、「もう少し気を付けていれば、防げたのではないか。」と思われるものが少なくありません。

私たちは、だれでもうっかりミスをすることがありますが、それが「不安全状態」(好ましくない状態)と重なれば、災害発生率は非常に高くなります。

不安全状態のもとでは、常に「災害が発生するかもしれない」という意識をもって、慎重に行動しましょう。

私たち一人一人が、公務災害防止の主役なのです。



不安全状態

+

不安全行動

=



例

暗くて見えにくい
床が濡れている
通路に物が置いてある
段差がある

不安全行動

無意識に行う行動
(ヒューマンエラー)

気付かなかった
無意識に体が動いた
慌てた…

意識的に行う行動
(リスクテイキング)

多分大丈夫だろう
面倒だ
少しだけだから…

公務災害や通勤災害の災害補償費用等(療養費など)は主に地方公共団体等からの負担金(職種区分に応じ、職員の給与総額×負担金率)によってまかなわれています。

基金広島県支部の負担金に対する災害補償費等の割合は全国と比較しても高く、公務災害防止は、重要な課題となっています。

(単位：千円)

区 分		平成19年度	平成20年度	平成21年度
広島県支部	負担金(A)	416,076	399,732	439,632
	災害補償費等(B)	525,011	627,123	682,757
	(B/A)	1.26	1.57	1.55
全国	負担金(A)	24,730,817	24,134,941	
	災害補償費等(B)	25,866,541	24,879,246	
	(B/A)	1.05	1.03	

不安全行動の例

気付かなかった

関心をもって注意を払っていれば何の問題も生じないのに、気付かなかったために負傷するケースが多く発生しています。気付かなかった理由としては、ほかのことを考えていた、一点に意識を集中していた、注意すべき点がそれていた、などが考えられます。

例えば…

- ・床の段差につまずいた。
- ・階段の滑り止めに足を引っ掛けて転んだ。
- ・トレイ上の使用済みの針で手を刺した。
- ・開いていたドアの枠に足指をぶつけた。



パターン

事前に注意を払っていない

自分の作業にしか目がいかなかった

周囲の変化・状態に気付かなかった

 災害

対策

- 作業等に取り掛かる前に、周囲に危ないものがないかなど状況を確認しましょう。
- 作業が長引くときは、適当な休息・休憩をしましょう。

無意識に体が動いた

普段と違う現象が起こったとき、人間はとっさに無意識な行動をしてしまいがちです。例えば、機械にトラブルが生じたとき、機械を稼働させたまま危険な箇所につい手を出してしまい、はさまれや巻き込まれに発展することがあります。

例えば…

- ・まだ回転中のドリルに思わず手を触れた。
- ・断裁機の刃に誤って指を触れた。
- ・つい熱湯の中に手を入れた。

パターン

いつものリズムで作業をしている

設備・機械に異変が起きる

危険箇所につい手を出してしまう

 災害

対策

- 無意識な行動をしても事故や災害に発展しないような対策を考えるべきです。作業の前には周囲をよく確認してから作業に取り掛かりましょう。
- まずは、身の回りの整備と整理・整頓をしましょう。

⚠️ 慌てた

通常なら機能している心と体の働きが、慌てたり、パニックになったりすると、うまく機能しなくなり、「気付かなくなる」「大丈夫だと思う」などの副作用が発生することがあります。

焦りやパニックは、周囲から急がされた、上司から叱られた、トラブルが生じた、などの原因によって生じやすくなります。

例えば…

- ・電車に乗り遅れそうになり、階段を踏み外した。
- ・指示を受けて、急いで対応しようとして、転んだ。
- ・現場に急行するため、さくを飛び越えようとして失敗した。



🗨️ パターン

「早く処理しなきゃ」と焦る

つい危険な行動をする

設備・機械などに接触する

災害

対策

- 慌てたときに出る自分の悪い癖を知り、対処法を身に付けましょう。
- 時間に追われたり、トラブルが生じたときは、「慌てるな」と自分に語りかけ、一呼吸置くことが災害回避につながります。

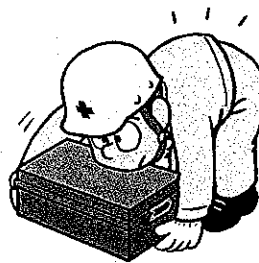
⚠️ 大丈夫だと思った

自分がそれをするによってどうなるかを想定できなければ、どのような行動でも「大丈夫」だと思ってしまいます。

しかし、その行動が客観的に無理なものであれば、事故・災害につながってしまいます。

例えば…

- ・重いものを1人で運ぼうとしてバランスを崩した。
- ・高所から飛び降りて骨折した。
- ・バイクで減速せずにカーブを曲がろうとして転倒した。
- ・いすを重ねて作業をし、崩れた。



🗨️ パターン

最悪の結果を想定できない

不安定な体勢で作業をする

身体のバランスを崩す

災害

対策

- 自分の軽率な判断や行動によって生じる結果の重大性を認識してください。
- 判断ミスをなくすためには、①状況をよく見て、②どうすれば危なくないかを考えて、③作業に移る、という手順を忘れずに。

あなたの「うっかり・ぼんやり」を チェックしてみよう

あなたは、「うっかり・ぼんやり」による公務災害とは無縁だと思っていませんか？

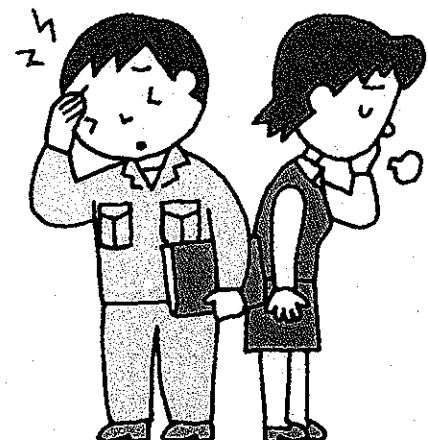
次の項目に当てはまるものがあれば、チェックしてみてください。チェックの数が多い人は、特に慎重に仕事に取り組みましょう。

<input type="checkbox"/>	予定が変わると、慌ててうまく対応できない
<input type="checkbox"/>	計算ミスや読み間違いが多い
<input type="checkbox"/>	人の話を最後まで聞かないことがある
<input type="checkbox"/>	探し物をする人が多い
<input type="checkbox"/>	電化製品などの説明書はあまり読まないほうだ
<input type="checkbox"/>	バーゲンでは、雰囲気につられてつい買いすぎてしまう
<input type="checkbox"/>	仕事に集中すると、ほかのことが見えなくなりがちだ
<input type="checkbox"/>	遅刻や忘れ物が多い
<input type="checkbox"/>	物事を度忘れしてしまうことがある
<input type="checkbox"/>	計画を立てるのが苦手で、立ててもそのとおりに進まないことが多い
<input type="checkbox"/>	待ち合わせに多少遅れても気にならない
<input type="checkbox"/>	段差でつまずいたり、障害物にぶつかったりすることが多い
<input type="checkbox"/>	仕事中にほかのことを考えてしまうことがある

油断大敵!

こんなタイミングで
災害が起きやすい

- ・長い精神的緊張が終わってホッとしたとき
- ・仕事へのウォーミングアップが不十分なとき
- ・待ち時間が頻繁にある業務
- ・体の不調や悩みごとがあるとき
- ・緊急の業務が終わった直後
- ・終業の前後



公務災害が発生した職場では・・・

公務災害が発生してしまったら、二度と同じような災害が発生しないように職場として取り組むことが必要です。

そのためには、どこに問題があったのかを分析し、職員が問題点を共有することが重要です。

また、「ヒヤリ・ハット」体験を発表し合うことによって、実際の事故につながる前に改善策を講じることができます。

うっかりミスによる災害を起こさないように心の帯を締め、災害ゼロの安全な職場環境づくりに努めましょう。



ヒヤリ・ハットの分類

身体的ヒヤリ・ハット

実際に軽いけがをするなど、痛い思いをしたヒヤリ・ハットです。



- 例**
- 配線につまずいた
 - ひじを柱にぶつけた
 - 包丁で指先を切った

精神的ヒヤリ・ハット

けがをしそうになり、精神的に「ヒヤリ」「ハット」した。



- 例**
- 機械に巻き込まれそうになった
 - 高所から転落しそうになった
 - 車にひかれそうになった

仮想ヒヤリ・ハット

実際の体験ではないが、起こり得るヒヤリ・ハットです。

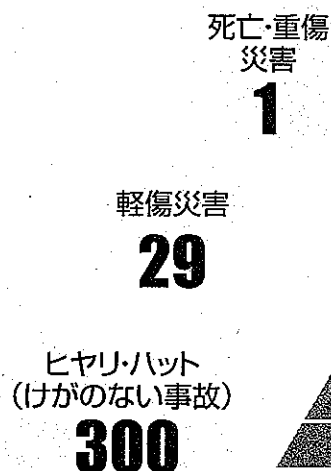


- 例**
- 機械に手をはさまれるかも
 - 油がこぼれている床で滑るかも
 - 段差でつまずくかも

皆さんのヒヤリ・ハット体験は、事故・災害を防ぐための貴重な情報源です。
安全を先取りするため、積極的に発表し合ひましょう。

ハインリッヒの法則

重傷以上の災害が1件発生したとすると、その背後には軽傷災害が29件あり、さらにその背後に災害統計には表れないヒヤリ・ハットが300件あるといわれています。



地方公務員災害補償基金広島県支部

〒730-8511 広島市中区基町10-52 広島県総務局総務管理部福利課内
電話 (082)513-2265 FAX (082)227-2327

このパンフレットは、三田良幸先生（中央労働災害防止協会公認KYTインストラクター）に監修していただきました。